No.96
Sep
2026



山梨大学 医学部附属病院 病院だより

はなみずき

UNIVERSITY OF YAMANASHI HOSPITAL NEWS

就任あいさつ

麻酔科診療科長　小川 覚



令和8年2月16日付けで麻酔科診療科長を拝命いたしました小川覚です。

外科手術の安全を担保するには、質の高い麻酔管理が必要不可欠です。現在、手術室では年間約7,400件の手術を実施しており、そのうち麻酔科管理症例は5,300件に上りますが、共に増加傾向にあります。患者さんが安心して手術を受けられて順調に回復するために、術前や術後の管理が麻酔科医を中心にした多職種チームによりおこなわれています。

麻酔科の術前（周術期）外来では、患者さんが安心して手術に臨むことのできる環境を提供しています。ペインクリニック外来では様々な疼痛に対応し、脊椎手術後や複合性局所疼痛症候群等の強い疼痛に対しては脊髄刺激療法（spinal cord stimulation: SCS）を実施しています。

難治性がん疼痛に対して腹腔神経叢ブロックといった特殊治療が必要な患者さんを県内医療機関から受け入れています。緩和ケアチームや術後疼痛管理チームの活動を通じて、麻酔科医は病院組織において様々な診療を支援する重要な役割を担っています。最近では、社会的ニーズの高い無痛分娩についても、産科医師と協力しながら開始いたしました。

各診療科が安心して診療にあたることのできる環境を提供するため、誠心誠意取り組んでまいります。今後とも皆さまのご支援とご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

就任あいさつ

医療の質・安全管理部副部長　磯野 絵美



このたび、医療の質・安全管理部副部長を拝命いたしました磯野絵美と申します。

これまで看護師長として、病棟、入院支援室・病床管理室、そして昨年度は手術部において経験を重ねてまいりました。病棟から総合支援部、手術部まで異なる現場に携わる中で、医療安全上の課題や部署間連携の重要性を実感しております。

医療の質・安全管理部は、「すべての患者さんに安心を」の病院理念の実現と特定機能病院における高度な医療安全管理体制の確立に向けて、安全で質の高い医療提供体制の構築に取り組んでおります。高度で専門的な医療を提供する一方、医療安全の確保はその基盤をなす最も重要な責務であると認識しております。

医療安全は、特定の部署や担当者のみで成し得るものではなく、院内すべての職員一人ひとりの意識と行動の積み重ねによって支えられるものと考えております。現場で日々患者さんと向き合う皆様のお声に真摯に耳を傾け、実効性のある仕組みづくりに努めるとともに、報告しやすく、学びを共有できる風土の醸成に力を尽くしてまいる所存です。

微力ではございますが、部長をはじめ関係各位のご指導を仰ぎながら、安全で質の高い医療の提供に貢献できるよう精進してまいります。何卒よろしくお願い申し上げます。

就任あいさつ

検査部臨床検査技師長兼副検査部長　内田 幹



このたび、令和8年4月1日付で臨床検査技師長を拝命いたしました。歴史と伝統ある当検査部の舵取りを担うにあたり、その責任の重さをかみしめ、附属病院の診療、研究、教育に貢献できるよう邁進していく所存です。

検査部では患者さんからの検体を預かり、それを分析して結果をお返ししています。また、生理機能検査では直接患者さんと接し、生体情報を可視化して提供しています。私たち臨床検査技師は検査の「プロ」として細心の注意を払いつつ、「安全・迅速・正確」な精度の高い検査データの提供を徹底してまいりました。また、医療を担う職種として、常に技術や知識の向上にも励んでおります。その中で国際認証制度であるISO15189の認証を取得、継続しております。さらに、最先端技術の導入やチーム医療への積極的な参画を通じて、質の高い医療支援を目指します。今後もその精度を維持するとともに、教育・研究機関としての役割を果たし、次世代を担う優秀な医療人材の育成にも全力で取り組んでまいります。

めまぐるしい速度で進む医療技術革新にともない、臨床検査技師に要求される能力も多様化、高度化している現状に後れを取ることなく、患者さんや医療従事者の皆様のお役に立てる組織として存在感を発揮できるよう、検査部職員一同、精進してまいりたいと考えております。

今後とも皆様からのご助言、ご鞭撻を賜りますよう、何卒宜しくお願い申し上げます。

就任あいさつ

総合相談・支援センター長　加賀 佳美



総合相談・支援センターは、医療福祉相談・難病支援・心理支援の三つの機能を柱に、患者さんとご家族の多様なニーズに寄り添うことを目的として令和8年7月に設立いたしました。治療と生活の両立支援や心理的支援を通じて、安心して医療を受けていただける環境づくりに取り組んでまいります。このセンターは、医療福祉相談・難病支援・心理支援を担っています。患者さんやご家族の多様な相談に対応し、治療と生活の両立支援や心理的支援等を通じて、患者さんへのサービスの質向上をめざします。

医療福祉相談では患者さん・ご家族、職員からの多様な相談に専門の相談員（医療ソーシャルワーカー）や看護師等が対応しています。また医療費や医療保障制度、在宅療養、医療機関情報等の相談を受け、関係機関との連携や情報提供を実施しております。難病支援では、山梨県の難病診療拠点病院として、診断・治療・療養相談や市民講座の開催、県内の医療ネットワークの構築などを行い、患者さんの診療や暮らしのお手伝いをさせていただいております。心理支援では医師や公認心理師が中心となり、患者さんやご家族へのカウンセリングや心理検査などを実施しています。

皆さまに信頼されるセンターを目指し、職員一同努めてまいりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

就任あいさつ

医学域事務部長　京嶌 信昌

令和8年4月1日付で医学域事務部長を拝命いたしました。現在、大学病院を取り巻く環境は、医師の働き方改革への対応、研究力の維持・向上、地域医療との連携、DXの推進など、多くの課題に直面しています。その中でも、病院が高度な医療・教育・研究機能を将来にわたって維持していくために、最も重要かつ喫緊の課題は、病院経営の安定化であると認識しています。

本院ではこれまでも経営改善や業務効率化に取り組んできましたが、厳しい経営状況が続いています。令和8年度診療報酬改定による改善効果が期待される一方、病院再整備事業は中断しており、外来機能強化棟の整備や医療機器の更新などに向け、計画的な財源確保が必要です。

大学病院には、高度先進医療の提供、医療人材の育成、医学研究の推進という重要な使命があります。地域の皆様に安全で質の高い医療を継続して提供するため、限られた経営資源を有効活用し、業務改革やDXの推進による生産性向上と経営基盤の強化に取り組んでまいります。

また、病院の発展は特定の部署や職種だけで実現できるものではありません。病院長のリーダーシップのもと、病院の理念と方針を全職員で共有し、医師・看護師・医療技術職員・事務職員が相互に連携しながら、それぞれの専門性と能力を最大限に発揮できる環境づくりを推進してまいります。



病院機能強化棟 完成予定図

山梨の外科医研修環境強化・拡充に係るクラウドファンディングを実施

山梨大学医学部外科系

令和8年6月1日(月)から8月28日(金)までの期間、山梨大医学部外科系による「必要な時に手術が受けられる山梨を守る。外科医研修環境の強化・拡充へ」のためのクラウドファンディングを実施しました。

本プロジェクトは、全国的な外科医不足や医療技術の高度化を背景に、山梨県内で若手外科医が高度な知識や技術を習得できる研修環境の整備・強化を目的として立ち上げたものです。山梨県では地域医療を支える若手医師が多く活躍していますが、高難度手術を学ぶ機会や研修環境の確保が課題となっています。こうした状況を改善し、将来にわたり県内で安心して高度な外科医療を受けられる体制を維持するため、本プロジェクトを実施しました。

おかげさまで、多くの皆さまから温かいご理解と多大なるご支援を賜り、目標額の220%を達成することができました。お寄せいただいたご支援は、高度で安全な手術手技を習得するためのトレーニング、高症例数施設での手術研修や学術活動など、若手外科医師の教育・研修環境の充実に大切に活用してまいります。

これらの取り組みを通じて、若手外科医師の成長を支えるとともに、県内の外科医療全体のさらなる質の向上につなげ、将来にわたり山梨県民の皆さまに質の高い医療を提供できる体制づくりに努めてまいります。

改めまして、本プロジェクトにご賛同いただき、温かいご支援と励ましのお言葉をお寄せくださったすべての皆さまに、心より御礼申し上げます。誠にありがとうございました。



医学部附属病院で「七夕コンサート」を開催

医学域事務部総務課

令和8年7月7日（火）、医学部附属病院1階外来玄関ロビーにおいて、「七夕コンサート」を開催しました。

本コンサートは、入院患者さんに癒しのひとときをお届けすることを目的として、毎年開催しているものです。当日は、木内病院長による開会挨拶の後、トリオ演奏グループ「フェールアンサンブル」が出演し、ピアノ・フルート・バイオリンによる美しい演奏を披露しました。童謡「七夕さま」や唱歌「夏の思い出」などの親しみやすい楽曲が演奏され、会場は温かな雰囲気に包まれました。

また、本学医学部交響楽団による演奏も行われ、バッハの「2つのヴァイオリンのための協奏曲」やベートーヴェンの「メヌエット」などが披露されました。会場に集まった皆さまは、ゲストとして参加したヴァン君とフォーレちゃんとともに、音楽に合わせて手拍子をするなどし演奏を楽しみ、心安らぐひとときを過ごされた様子でした。



演奏するフェールアンサンブル



演奏する医学部交響楽団

令和８年度医学部公開講座「すこやかに生きる」を開催



波呂教授による講演の様子



予防体操を体験している様子

令和8年9月12日（土）、医学部キャンパスで公開講座「すこやかに生きる」を開催し、78名が参加しました。

波呂浩孝教授（整形外科）は「美しいエージングを目指して：これからの骨粗鬆症とロコモ対策」と題して講演。骨粗鬆症は自覚症状が乏しいまま進み、背骨や大腿骨の骨折につながることから、検診による早期発見と適切な治療の大切さを解説しました。

また、筋力やバランスの低下により移動機能が衰える「ロコモティブシンドローム」について、運動や栄養、転倒予防が健康寿命を延ばす鍵になると紹介しました。

続いて、間嶋貴大理学療法士と海野佑太作業療法士の指導によるロコモ予防体操を実施。参加者は実際に体を動かしながら、骨と筋肉の健康を守る方法を学びました。

PROJECT ZERO・腎臓内科　職場見学・体験プログラムを実施

腎臓内科

令和8年7月23日（木）、医学部キャンパスにおいて、中高生を対象とした腎臓内科の職場見学・体験プログラムを実施しました。

本プログラムは、腎臓内科学講座とプロジェクトゼロ推進ユニットが共同で企画したもので、医療や研究に興味があり、将来の進路について考えている中高生を対象に開催しました。

現役医師との交流や体験を通じて、「働くとは何か」「医師や研究者はどのような思いで仕事に取り組んでいるのか」を考える機会を提供し、これから社会へ羽ばたく中高生の主体的なキャリア形成につなげることを目的としています。

当日は15名の中高生が参加し、石井俊史助教（腎臓内科学講座）によるミニレクチャーで腎臓の働きや腎臓内科の役割について学びました。

その後、腎臓内科医局へ移動し、減塩の重要性を体感するプログラムや、医局・研究室の見学を実施しました。参加者は、普段入ることのできない医療・研究の現場に触れながら、医師や研究者の仕事について理解を深めました。

参加した中高生からは、「『何のために働くのか』について時間をかけて考えていきたい」「もっと医療について学びたい」などの声が聞かれるなど、参加者の多くから高い評価が寄せられ、普段とは異なる環境での学びや体験を楽しむ様子が見られました。



説明する石井助教



全体の様子

※「PROJECT ZERO」は、子どもから大人まで世代を超えて有機的につながる健康教育を行い、未来の社会を支える子供たちのために子供たちを起点とした生活習慣病対策、健康づくりを実践していき、未来につながる健康づくりをサポートするプロジェクトです。



記念撮影

「ドキドキ！心臓体験教室」を開催

脳卒中・心臓病等総合支援センター

令和8年7月26日(日)、山梨大学医学部附属病院臨床支援棟4階シミュレーションセンターにて、「ドキドキ!心臓体験教室」を開催しました。

心臓病や脳卒中は高齢者に多い病気ですが、患者数が増加している現在、子どものころから健康や救命について学ぶことは大切です。本イベントは、県内の小学生に、心臓のしくみや病気の予防、心肺蘇生について、楽しく体験しながら学ぶ機会を提供することで、医療への興味や地域の健康意識を育むとともに、「8月10日・健康ハートの日」を前に、心臓病予防の啓発につなげることを目的に開催しました。

当日は、医師、看護師、薬剤師、栄養士、臨床検査技師の多職種で協力して実施し、小学6年生を中心に、小学生37名とその家族にご参加いただきました。参加者は7～8名ずつのグループに分かれ、①心臓聴診、②AED・心肺蘇生、③お仕事紹介、④心臓を守るクイズ、⑤心臓超音波体験の5つのブースを順番に体験しました。最後には参加者一人ひとりに「心臓マスター認定証」を授与し、体験教室を終了しました。

参加者からは「自分の心臓の音が聞けて、おもしろかった」「倒れている人がいたら、心臓マッサージやAEDを使って助けたい」「お仕事紹介で直接医療者の話が聞くことができてよかった」などの感想が寄せられました。

当センターでは、今後もこのような機会を通じて、子どもたちが健康や医療に親しみ、命の大切さについて学ぶとともに、将来医療職を目指すきっかけとなる機会を提供してまいります。



①心臓聴診体験



②AED•心肺蘇生体験



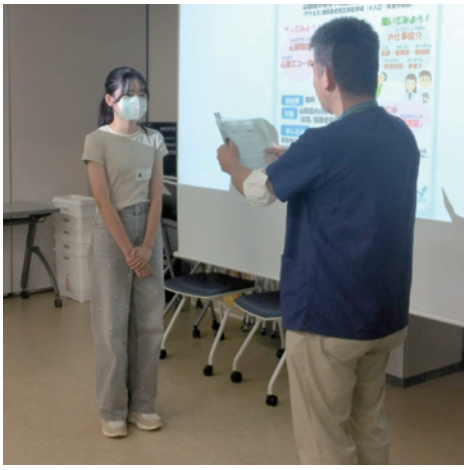
③お仕事紹介



④心臓を守るクイズ



⑤心臓超音波体験

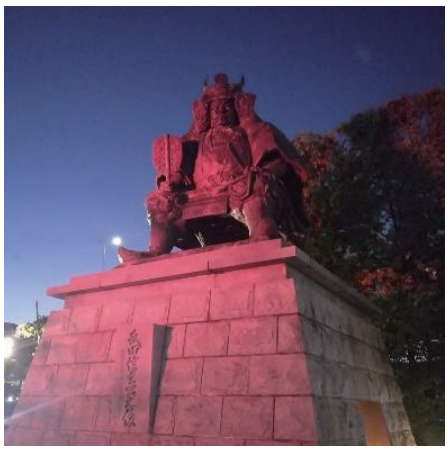


心臓マスター認定証授与

「健康ハートの日」ライトアップイベントを開催

脳卒中・心臓病等総合支援センター





毎年8月10日は、8と10でハートと読めることから健康ハートの日として、全国各地で心臓病予防を呼びかけるイベントが開催されています。本センターでは令和8年8月10日(月)に昨年に続きライトアップイベントを実施し、甲府駅南口においてオリジナルうちわの配布を行いました。

当日は、本院の脳卒中・心臓病等総合支援センターのスタッフをはじめ、ガールスカウト山梨県連盟の皆様、県内医療機関の医師、看護師、理学療法士、作業療法士、管理栄養士、薬剤師など、多職種にわたる総勢約60名の皆様にご参加いただきました。参加者は、「8月10日は健康ハートの日」であることを呼びかけながらうちわを配布し、約500本を市民の皆様へお渡しすることができました。

また、18時30分頃からは武田信玄公像のライトアップが行われました。赤く照らし出された信玄公像に足を止めて見入る方や写真撮影をする方の姿も見られ、多くの皆様にイベントや「健康ハートの日」について関心を持っていただく機会となりました。今後も多くの皆様に健康への関心を高めていただけるよう、このような啓発活動を継続してまいります。

世界小児がん啓発キャンペーンで信玄公像をゴールドにライトアップ！

小児科

令和8年9月7日（月）と9月8日（火）の2日間、「Global Gold September Campaign（世界小児がん啓発キャンペーン）」を実施しました。

本キャンペーンは、子どもたちの未来がゴールドのように輝くことを願い、小児がんへの理解を深め、支援の輪を広げることを目的として、毎年9月に世界各国で行われています。各地域を象徴する建物や橋などをゴールドにライトアップする取り組みで、2015年にアメリカで始まり、日本では2021年から日本小児がん研究グループ（JCCG）の主導により全国各地で実施されています。

本院も本キャンペーンの趣旨に賛同し、甲府駅前の信玄公像をゴールドにライトアップしました。今年はあいにくの雨模様となり、当初予定してた3日間から2日間へ短縮しての実施となりましたが、雨の中、山梨県の職員の方々にもライトアップに足を運んでいただき、活動へのご理解とご支援をいただきました。

雨に照らされた信玄公像のゴールドの光が、小児がんと向き合う子どもたちやご家族への応援の気持ちとして、多くの方に届くことを祈っています。今後も地域の皆様と共に、小児がんへの理解と支援の輪を広げてまいります。



第48回山梨県看護大会で「看護功労者」「県民の看護師さん」を受賞



左から、松土師長、山本師長、茶谷師長

県民の看護師さん 受賞　ER／松土裕子看護師長

このたびは「県民の看護師さん」という栄誉ある賞をいただき、大変光栄に思います。日頃から支えてくださる先輩方、そして共に学び支え合ってきた同僚や地域の皆さまに心より感謝申し上げます。

私は常に「患者さんは生活者である」という視点を大切にしています。長年、退院支援業務を通して地域とのつながりを学び、多職種と連携しながら患者さんの意思決定を支えてきました。

現在は救急外来で勤務していますが、救急医療の現場においても、退院後の生活や在宅療養を見据えた支援の重要性を日々実感しています。

これからも地域に根ざした看護を実践し、患者さんと家族が安心して暮らせるよう、看護の力を地域へつないでいきたいと思います。

看護功労者 受賞　管理室／茶谷直子看護師長

このたびは、栄誉ある看護功労者知事表彰を賜り、身に余る光栄に存じます。看護師として歩んできた中で、多くの患者さんやご家族との出会いを通して、看護の大切さを学び続けてまいりました。

また、困難な場面では先輩方や同僚、友人に支えられ、常に応援してくれる家族の存在に励まされてきました。

この受賞は、私一人の力ではなく、多くの方々のお力添えがあってこそのものと心より感謝しております。

この受賞を励みに、今後も患者さんやご家族に寄り添い、後進の育成と組織への貢献に努めてまいります。ありがとうございました。

看護功労者 受賞　5階西病棟／山本秀美看護師長

このたびは、看護功労者として名誉ある賞を賜り、誠にありがとうございます。

日々の活動は、患者さんやそのご家族、導いてくださった諸先輩方、そして共に働く同僚と家族の協力があってこそ続けられたものです。心より感謝申し上げます。

今日まで、病院という組織の中で、沢山の患者さん、医療関係者と関わらせて頂きました。看護は、知識や技術だけではなく、人との信頼関係や絆も大きく関わり、成り立つ仕事であると実感しています。

今後も、患者さんのその人らしさを大切に、共に考え看護を提供できるよう、後進育成にも努めていきたいと思います。

理念　「すべての患者さんに安心を」

基本方針　当院は、高度医療の中核として、患者さんに安全で最適な医療を提供するとともに、人間性豊かな医療人の育成と臨床医学の発展に貢献します。

目標
- 患者さん中心の医療の提供
- 多職種連携による安全で質の高い医療の実践
- 先進医療の推進と医学の発展への貢献
- 自らの使命と責任を自覚し、豊かな人間性と高い倫理性を備えた医療人の育成
- 地域連携の強化による医療、介護および福祉の向上